

ワークショップ

「苔の種をまく・育てる」



＜苔の種＞

苔は「種」をまいて増やし、育てることができます。本来、苔は孢子で増えて行く生態を持つ植物ですが、孢子を利用して増やす技術は、現在、確立されていません。

「苔の種」は、苔神工房が開発した技術であり、日本苔技術協会が共有する製品名でもあります。

「苔の種」は成長した苔の茎葉体を加工して播種すると、茎葉体の切片から新芽が発生する生態を利用します。

- 1、まず、成長した苔を採取して、異物除去と洗浄をし、乾燥させます。
- 2、乾燥した苔の茎葉体を裁断して、細かくし、種として利用します。

今回ワークショップで実施する苔の種は、5種類の苔を混合して作っています。苔は種類に応じた生態を持っており、強い光を好むもの、弱い光を好むもの、その中間を好むもの、また、たくさんの水分を好むもの、少ない水分を好むもの、その中間を好むもの、などです。今回使用する苔は以下の通りです。

- | | | |
|--|--------|------------|
| ① ウマスギゴケ (<i>Polytrichum commune</i>) | 強い光を好む | たくさんの水分を好む |
| ② エゾスナゴケ (<i>Racomitrium japonicum</i>) | 強い光を好む | 少ない水分を好む |
| ③ ハイゴケ (<i>Hypnum plumaeforme</i>) | 中間を好む | |
| ④ ホソバオキナゴケ (<i>Leucobryum juniperoideum</i>) | 弱い光を好む | 少ない水分を好む |
| ⑤ トヤマシノブゴケ (<i>Thuidium kanedae</i>) | 弱い光を好む | たくさんの水分を好む |

①



②



③



④



⑤



5種類の混合の苔の種を使用することで、苔を育成する環境がどんな場所でも、その環境に合った苔が旺盛に生育してくれますので、初めて苔を栽培する方にもやさしく苔を育てることができます。

＜苔の種まき＞

苔は基本的に根から水分・養分を吸収して成長に役立てる生態を持っていません。従って、種をまく土は栄養素の少ないものを利用します。もし、栄養素の多く含まれる土を使用すると、栽培の途中で雑草が繁殖してくる可能性があります。雑草が繁茂してしまうと、苔が受ける光りが遮られてしまい、成長を阻害することがあります。

今回使用する容器・培土・苔の種は、以下の通りです。

植木鉢（プラスチック製）10型 1個

赤玉土（小粒） 1.5 リットル

苔の種 5 種混合 0.35 リットル



- 1、植木鉢に赤玉土（小粒）1.5 リットルを投入します。
- 2、赤玉土に水をたっぷりと含ませます。
- 3、軽く土を平らにならしめます。
- 4、苔の種（5 種混合）0.35 リットルを土の上に投入して、均一になるようにならしめます。
- 5、苔の種が動かないように、上から水をかけて、水分を吸収させます。
- 6、木ゴテを使って、全体を押し付け、苔の種が土に密着するようにします。

＜苔の育て方＞

苔は基本的に自然の状態で育てます。雨の当たる場所であれば、ほとんど水をやる必要はありません。もし、雨が降らない日が1週間以上続くときは、水をやります。水のやり方はじょうろを使用して柔らかく、たっぷりとやります。

育てる途中に、時々、苔の発芽の様子や、生育の様子を観察してみてください。また、雑草などが生え始めたら、早いうちに除去して下さい。

苔が一人前に育つには、2年ほどかかりますので、ゆっくりと育てて下さい。

苔の育て方 「栗原苔フェスティバル 2025」講習資料

JMTA 日本苔技術協会

苔アドバイザー 北川義一 監修